

戦争をさせない Anti-War Committee of 1000 1000人委員会

1000人委員会ニュース
NO.50
(2016年10月14日)
〒101-0063 東京都千代田区
神田淡路町 1-15 塚崎ビル三階
TEL03-3526-2920
FAX03-3526-2921



第2次集約 228万3799筆を提出

国会提出累計 1580万筆

10月5日、衆議院第1議員会館内で戦争法の廃止を求める統一署名の第2次提出集会が開催され、国会議員24名に手渡しました。5月19日に第1次署名として約1350万筆提出しましたが、それ以降集約された230万3799筆の署名を追加提出、その結果、累計数は約1580万筆に達しました。



決してあきらめない！ 戦争法廃止！安倍政権打倒へ！

集会は、最初に主催者を代表し、総がかり行動実行委員会の小田川義和さん(憲法共同センター)が挨拶し「みんなの頑張り合いの結果が、これだけの署名があつまった、署名に託された市民の思いを真正面から受け止め、戦争法廃止、立憲主義回復、安倍政権打倒へのたたかいへと、さらに勢いを付けるものにしていこう」と訴えました。

その後、参加した国会議員に各団体の代表が署名の一部を手渡しました。そして各政党から、民進党の神本美恵子参議院議員、共産党の穀田恵二衆

議院議員、社民党の福島瑞穂参議院議員、生活の党の玉城デニー衆議院議員、会派「沖縄の風」の糸数慶子参議院議員が挨拶し、「署名の重みを受け止め、これからもともにたたかう！」決意等をそれぞれ述べました。そして、最後に、1000人委員会の福山真劫さんが今後の取り組みとして行動提起を行い「署名に託されたものを私たちがどう生かすか、その責任は大きい。10月19日国会前の行動。10月30日は南スーダンへの自衛隊派兵反対青森現地の行動。12月10日沖縄と連帯する行動。沖縄の署名活動などを成功させ、野党と市民連合と総がかりと市民が一体となった野党共闘の力で自公政権を打倒しよう！」と訴えました。

戦争法廃止！憲法をいかそう！

-さらなる広がり求めて 総がかり行動シンポジウム-

総がかり行動実行委員会 シンポジウムを開催

「総がかりのこれまで・これから」 たたかいを豊かにさらに大きく

10月2日、総がかり行動実行委員会は、東京・北区の北とぴあで、「戦争法廃止！憲法をいかそう！さらなる広がり求めて、総がかり行動シンポジウム」を開催、900人が参加しました。

集会は、9条壊すな！実行委員会の土井登美江さんが司会。最初に、主催者を代表して高田健さん（9条壊すな！実行委員会）が挨拶し、こう述べました。「私たち市民の力が政党をも変えてきた。民進党の元代表の岡田氏は、『市民が中心になって野党共闘が実現し新しい民主主義が始まった』と述べている。私たちは絶望するには早すぎ、多すぎる程の希望がある。私たちの運動と国会とが連携し、福岡と東京での衆院補欠選挙・新潟の県知事選、これらに勝ち抜きながら沖縄の高江・辺野古への弾圧、戦争法の発動・南スーダンへの派兵を跳ね返していく大きな力を作っていかなければならない。共に頑張り抜こう！」



これまでのたたかいの総括と 今後の主要課題・たたかいの方向を提起

次に、戦争をさせない1000人委員会の福山真劫さんが、総がかり行動実行委員会の2014年12月結成以降の1年10か月の取り組み内容を報告、その成果や残された課題等、総括提起を行いました。【詳細は総がかり委員会のHPに文書掲載をしています。】そして、総がか



り行動をさらに強化拡大をすることを通じた今後のたたかいの主要課題・その方向性を提起。戦争法の発動・南スーダンへの派兵反対、憲法調査会の動きに対応した改憲阻止運動。格差貧困問題への対応。沖縄連帯行動・沖縄への基地建設反対統一署名。野党共闘強化による衆院選。5・3憲法集会、違憲訴訟支援、脱原発など、たたかいの主要課題を提起しました。そのうえで、当面の行動として、①10・19国会前行動②10・30青森現地行動③南スーダン派兵閣議決定日の抗議行動④12・10沖縄連帯集会⑤衆議院選⑥沖縄の基地建設反対署名…などの成功を訴えました。

沖縄と本土が力をあわせ 安倍政権の暴走を食い止めよう

次に沖縄コーナーとして、「寿」のミニコンサートと沖縄からのアピールが行われました。アピールを行った一坪反戦地主会関東ブロックの木村辰彦さんは、「今、沖縄の高江では、ヘリパッド建設反対のたたかいに警察権力の暴力を使った弾圧をおこない、基地建設を【次ページへ】



強行している。また、辺野古訴訟で福岡高裁は、基地建設反対の沖縄県民の意思を押しつぶし、地方自治を踏みにじる不当判決を下した。しかし、県民は決してくじけない。沖縄の問題は日本の民主主義の問題、地方自治の問題、日本国民全体の問題だ。沖縄と本土の皆さんが心をつなぐれば必ず辺野古も高江も基地建設を阻止できる。戦争への道をつきすすむ安倍政権の暴走を食い止めるたたかいを沖縄と本土が力をあわせて共にたたかっていきましょう！」訴えました。

シンポジウム 総がかり行動の「これまで・これから」

シンポジウムは憲法共同センターの小田川義和さんがコーディネーターとなって進行。「総がかり行動のこれまでとこれから」をテーマに高野孟さん（インサイダー編集長）、中野晃一さん（上智大学教授）、渡辺治さん（一橋大学名誉教授）がシンポジストとして次のような発言（要旨）をしました。

中野晃一さん【発言要旨】

あらゆる階層の市民を結集させ、国会議員を国会前集會に引き寄せ、そして野党共闘へとつながったのは、総がかり行動実行委員会の粘り強い努力の積み重ねの結果だ。途中、野党共闘がなかなか進まず、一時は落ち込んだりもしたが、実を結んだ。それまでは、別々の団体で分断されていた運動だったわけだから、総がかりの意義は大きい。これから野党共闘をどうやって強くしていくのか、どうやって市民とのつながりをより強固にしていくのか。それにヒントになるのが、個人の尊厳を擁護するという点だ。私たちが戦争に反対している理由は、その尊厳が最悪な形で踏みにじられるのが戦争であるからだ。その尊厳を大事にする政治とはどういうものであるのか肉付けし、より多くの人に共感してもらって、野党共闘をどう支えてもらえるか。これが課題だ。尊厳の問題で言えば、女性の方が男性よりはるかに尊厳を踏みにじられているわけだから、女性の権利の問題、性暴力、雇用格差問題等取り上げるべきだ。民進党も安倍政権の下では憲法改正はやらない、9条は守るといったようになった。民進党は根気強く育てることが必要だ。衆議院選も厳しいが、やる以上、勝つつもりでやらないといけない。内ゲバムードというか、潔く分断されるほうが良いという誘惑もあるが、ここは、運動の中でもお互いの尊厳を大事にする。お互いへの敬意を忘れないようにする。お互い、もともと違うところから出発していて、ここに一緒にいるのが奇跡なんだということ。他者性を受け入れていく。これらの原点を忘れず、さらに前を向いていきたい。



高野孟さん【発言要旨】

まず、参議院選の結果だが、民進党惨敗、野党共闘は大善戦という言い方に尽きる。民進党は改選議席43のところ、32を確保。そのうち7議席は野党共闘の成果だったので、もし野党共闘がなければ25だったことになる。民進党は再生立ち直るきっかけをつかんでいない。また、問題は安保法や憲法を争点にし切れなかったことだ。争点は安保や憲法ではなく、待機児童や福祉など暮らしの問題を優先すべきとの言い方があったが、安保も暮らしも福祉も根っこは命という点でつながっている。安保も暮らしも大事なのだ。しかし、改憲派が3分の2確保したからと言って改憲へ一直線とはならないだろう。天皇の生前退位問題は特別立法ではなく皇室典範改正という制度論になるだろう。また、TPPの国会審議もすんなりはいかないだろう。民進党内にもリベラル派もいる。超党派の立憲フォーラムもある。これらを足掛かりにすることに希望を持ちたい。これからのたたかいで重要なのは、沖縄の辺野古と高江の問題だ。秋から冬にかけて切羽詰まった課題になる。この課題で勝ちに行くことが大事だ。

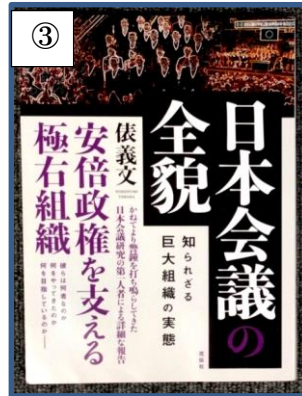


渡辺治さん【発言要旨】

参院選の結果明らかになったのは、これからの政治を変えていくには野党共闘の道しかないことが目の前ではっきりと示されたことだ。また、この野党共闘は戦争法反対の共同の運動の積み重ねがあつて初めてもたらしたものだ。しかし、どうして、3分の2を許したのか、それは安倍政治に変わる受け皿はできたが、その皿の上に料理を乗せられなかったからだ。戦争をさせないという平和の料理はあつたが、安倍政治に変わる全体像、暮らし・社会保障等の料理を見せられなかった。2009年の民主党の政権交代の時、「コンクリートから人へ」、「国民の生活が第一」・・・という料理を見事に示し、国民の支持を得た。財界やアメリカからの猛攻撃もあり挫折したが、私たちも反省すべきだ。私たちは政党を育て、変えていく運動をすべきで、あのとき私たちが主人公として民主党を包囲して圧力をかけるということではなく観客席にいただけだった。政党の背丈は私たちの運動の背丈でしかない。総がかりのこれからは、総がかりこそが、皿の上に料理を乗せる。格差貧困問題・社会保障、介護職員含めて賃金雇用などの課題を全力でやり抜く。総がかりの運動をもっと豊かにもっと大きくしていくことが重要だ。



書籍の紹介



安倍新内閣の閣僚 20 名中 16 名が日本会議国会議員懇談会に所属しています。改憲運動の中核を担う極右団体「日本会議」の正体・全貌・野望とは？

- | | |
|-------------------|------------------|
| ① 「日本会議の正体」 青木理著 | 平凡社新書 800 円 (税別) |
| ② 「日本会議の研究」 菅野完著 | 扶桑社新書 800 円 (税別) |
| ③ 「日本会議の全貌」 俵義文著 | 花伝社 1200 円 (税別) |
| ④ 「日本会議とは何か」 上杉聡著 | 合同出版 1000 円 (税別) |

◆◆◆ 主な行動日程 ◆◆◆

■10月19日(水) 17:00～

「さあ、安倍政治を終らせよう」10.19 院内集会

- ・講演：前田哲男さん(軍事評論家)
「南スーダン駆けつけ警護—PKO はどこまで変質するか」
- ・場所：衆議院第二議員会館・第一会議室
- ・主催：戦争をさせない1000人委員会・立憲フォーラム
※会場が狭いため、参加は事前申し込みとさせていただきます。
参加希望の方はメール：fukuda@haskap.net または FAX：03-3303-4739 までお申し込みください。

■10月19日(水) 18:30～

◇戦争法廃止！安倍政権の暴走止めよう！国会前行動

- ・場所：議員会館前
- ・主催：総がかり行動実行委員会

■10月30日(日) 13:30 から 15:30

◇自衛隊を南スーダンに送るな！！ いのちを守れ！！青森集会

- ・場所：青森駅前公園
- ・主催：戦争法廃止を求める青森県民ネットワーク
総がかり行動実行委員会

■南スーダン派兵—閣議決定日緊急抗議行動

- ・時間：朝7時45分からを予定(未確定)
閣議決定時期は11月頃と思われます
- ・場所：首相官邸前

■12月10日(土)

◇沖縄連帯集会(仮称)(時間など詳細未定)

- ・場所：日比谷野外音楽堂
- ・主催：総がかり行動実行委員会